



慶應義塾大学ビジネス・スクール

企業の持続性と戦略オムニバスケース

5

福田金属箔粉工業（株）¹

同社の創業は江戸中期、1700年（元禄13年）のことである。俳諧師でもあった福田鞭石が京都の山科で金銀箔・粉の商いを始めた。鞭石を継いだ孫の練石は1775年（安永4年）73歳のとき、その後の家訓となる『家の苗』を著している。この書は『福田氏三代年中行事掟書』と『茅屋年中行事』の二編からなり、前者は商人の心構えや給料支払の考え方などが記され、後者には様々な行事のしきたりが述べられている。井筒屋（当時の屋号）の事業は、これらの掟を守り、規律ある経営が続けられてきた。

10

井筒屋は金銀地金を仕入れ、それをまず「上澄屋」と言われる請負業者に出して厚箔にさせ、次にそれを「箔打屋」に回して薄箔にし、販売する。金銀粉についてもほぼ同様のプロセスであった。

15

当時の金銀箔粉の用途は、箔では屏風、金銀糸、仏壇、仏具、また万金丹等の医薬品、粉は多くが蒔絵に、また通常より細かい消し粉は絵の具に使われた。真鍮粉も蒔絵や金色絵の具に良く用いられた。

伝統工芸から近代工業へ

20

1869年（明治2年）に首都が京都から東京へ移る。これに伴い、京の雅（みやび）の文化は火を消したように沈滞していく。そのような中、5代目重助は生き残りをかけ、金色顔料用の真鍮粉の製造に挑む。

6代目重助（5代目と同名）の時代に屋号は福田重商店と変わるが、この時最初の転機が訪れ

¹ 本項は、慶應義塾大学ビジネス・スクールケース「福田金属箔粉工業株式会社～長寿企業の経営システム～」(同大学院経営管理研究科柳原一夫教授の指導の下、大久保隆弘氏によって作成)ならびに公開データを基に加筆・抜粋・修正している

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール(〒223-8523 神奈川県横浜市港北区日吉本町2丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp)。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/>へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法(電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない)による伝送も、これを禁ずる。

Copyright© 岡田正大 (2008年7月作成)